

横浜市小学校社会科研究会

5 学年部会

研修会記録

第 1 号

令和2年 7月 1日

横浜市小学校教育研究会

会長 相澤 昭宏

横浜市小学校社会科研究会

会長 梅田 比奈子

同 学年部長 引田 雄士

【提案日】

7月 1日 (水)

提案 引田 雄士先生 (中山小)

【会 場】

横浜市立平沼小学校

司会 板山 涼 先生 (中尾小)

記録 蓮實 聡太先生 (岡津小)

今年度の5学年部会の研修会の方針 (視点について)

今年度の市社研として大切にしていきたいことを共通理解した。そのことを受けて、5学年部会として大切にしていきたいことを確認した。

視点1 子どもの予想と見通しを大切にした単元づくり

5学年部会では、以下3点について大切にしていく。

- 子どもとともに生み出す「単元を見通す学習問題」を生かした学習過程について
- 学習計画が子どもの学習過程にどう生かされているかについて
- 何をどのように学んだのか子どもの言葉・ふり返りからの分析について

視点2 本気の学習問題を追究し、社会事象の意味等に迫る授業づくり

5学年部会では、以下2点について大切にしていく。

- 子どもの言葉から「本気の学習問題」の成立過程について
- 資料の精選や提示のタイミングについて

① 米作りの単元をもとに学習計画について参会者とともに考えた。

提示された資料

- ・日本の米の生産量を表した地図
- ・魚沼の航空写真
- ・米袋

3つの資料から「どうやって米作りをしているのだろうか？」という単元を見通す学習問題を設定し、どんな学習計画を立てるか意見交換した。

参会者の意見

- ・どうして新潟や東北地方の米の生産量が多いのか。育て方に秘密があるのか。
- ・どのように米は作るのか。どんな機械を使っているのか。生産量はどのくらいなの

か。同じ5kgの米でもどうして値段が違うのか。

- 新潟ってどんなところ？
- 米袋の写真の2人は、どんな人？

学習計画を立てるときには、子どもの思いだけではいけない。学習指導要領に沿って、農家の工夫による米の品質や安全性など何を学ばせるのかを教師自身もっていることが大切である。また、単元の導入は大切である。意図的にインパクトのあるものを用意することで、単元を通して子どもの興味・関心は高まっていく。

② 振り返りについて、授業でどのように行っているかグループで意見交換した。

振り返りについては、「子どもが自覚する」振り返りになるように工夫することを確認した。例えば、水産業の学習をしているときに、農業で学習したことを生かした振り返りである。「農業を学習した時に～だった。だから、水産業でも～ではないか」などというような振り返りを大切にしていく。

また、5学年部会では、

- 単元の途中→単元での学習活動につながる振り返り
- 単元の終末→社会や生活につながる振り返り

について研究していくことが確認された。

参会者からの意見

振り返りについては、単元の途中に行う学習活動につながる振り返りと単元の終末に行う社会や生活につながる振り返りの2回行えばいいのか。

↓

そのことを含めて研究していきたい。毎回振り返りを行い、子どもの反応を見ながら今回は！という時には単元での学習活動につながる振り返りや社会や生活につながる振り返りを行うといいのではないかと考えている。